

鞍手町立小学校統合整備事業

基本設計業務の完了について

鞍手町教育委員会

I . 設計の基本方針

■本計画の概要

本計画は、剣南小学校、剣北小学校、古月小学校、西川小学校、新延小学校、室木小学校を統合し、鞍手町立統合小学校（仮称）を整備します。また同一敷地内に、隣接する鞍手中学校への配食も行う学校給食共同調理場及び、放課後児童クラブを整備します。人口減少や少子高齢化、技術革新や働き方改革など、社会環境の変化に対応する「生きる力」を育む教育環境づくりと、鞍手町の教育特性を活かした学校づくりを行います。

■設計趣旨

本計画のコンセプトを踏まえ、以下に示す学校づくりを行います。

1) 多様な児童を受け入れ、個性を伸ばす学校

- ・普通教室の他に、ラーニングコモンズの様な開放的な空間や、デンの様な隠れ家的小空間など様々な空間を設け、児童が自分に合った居場所を見つけ、自由に過ごし方を選択できる計画とします。
- ・光が入りにくい建物内部には、光庭やハイサイドライトを設置し、自然光を取り入れることで、明るく開放的な空間を創出します。
- ・児童が毎日通る昇降口正面には、鞍手町の歴史や統合前の6校の伝統を継承するくらてギャラリーや、町内や学校行事などの情報を発信するコーナーを計画します。
- ・学校内の至る所にギャラリーや情報コーナー、各階にラーニングコモンズを配置し、児童の学習意欲や好奇心を掻き立て、向上力を高める環境を整備します。
- ・ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、すべての人が利用しやすい計画とします。

2) 多彩な交流が生まれる学校

- ・学年毎に計画した普通教室前の開放的な多目的スペースや、1学年が収容できる会議室を設けることで、学年間の交流を促進します。
- ・多くの児童が行き交う昇降口正面に、児童同士や、児童と教職員が交流できる広い空間を計画します。
- ・1階のくらてホールから大階段、2階の図書室兼ラーニングコモンズ、3階のラーニングコモンズを連続的に配置し、他学年との交流を促進する環境を整備します。

3) 安心で安全な学校

- ・校舎棟南東に職員室を配置し、グラウンドや正門への視認性を高めます。
- ・大階段や吹抜けによる空間の連続性を向上させ、見通しを良くし、管理が行き届きやすい計画とします。
- ・正門から昇降口までのアクセス動線には、幅の広い歩道を整備し、歩道と車道の区分を明確にします。
- ・地域開放が想定される屋内運動場は、正門からアクセスしやすい位置とし、校舎とは別の出入口を設け、セキュリティに配慮します。
- ・放課後の利用が想定される放課後児童クラブ棟は、正門付近に専用の出入口を設け、管理がしやすい計画とします。

■事業工程

区分 / 年度	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)
設計	基本設計	実施設計			
工事		解体工事	建設工事		開校

■計画概要

	校舎棟	放課後児童クラブ棟	管理棟
用途	小学校 (学校給食共同調理場含む)	放課後児童クラブ	作業室・屋外トイレ
建築面積	約 5,195㎡	約 563㎡	約 140㎡
延べ床面積	約 10,911㎡	約 563㎡	約 140㎡
階数	地上 3 階	地上 1 階	地上 1 階
建物の最高高さ	約 14.8 m	約 5.52 m	約 3.5 m
最高軒高	約 12.4 m	約 3.95 m	約 2.9 m
構造	鉄筋コンクリート造	鉄骨造	鉄筋コンクリート造
耐震安全性の分類	構造体：Ⅱ類 建築非構造部材：B類 避難施設機能(屋内運動場) A類 建築設備：乙種	構造体：Ⅱ類 建築非構造部材：B類 建築設備：乙種	構造体：Ⅱ類 建築非構造部材：B類 建築設備：乙種
その他	耐火建築物		
駐車場	来校者用駐車場 28 台（車いす駐車場 2 台含む） スクールバス一時駐車場 4 台 教職員及び放課後児童クラブ職員用駐車場 66 台 学校給食共同調理場職員用駐車場 19 台		
解体建物	剣南小学校（屋内運動場・プール含む）		
土木工事概要	敷地造成・グラウンド整備		

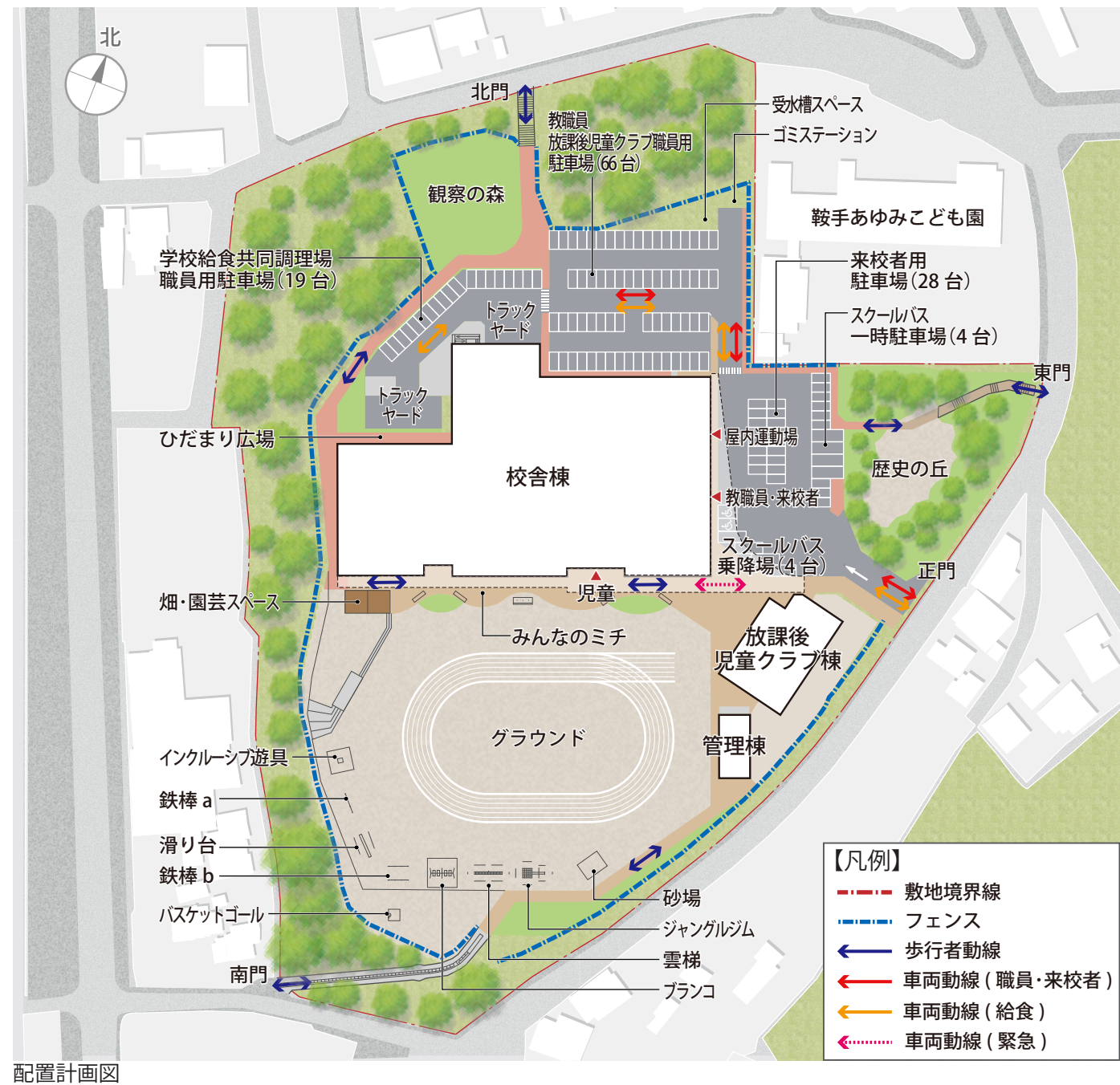


鳥瞰イメージ

II . 計画概要

■配置計画

- 1) **建物計画**：校舎及び屋内運動場、学校給食共同調理場は一棟型のコンパクトな建物とします。グラウンドの日照確保、教室の向き、近隣への影響を考慮し、「校舎棟」を北側、グラウンドを南側に配置します。「放課後児童クラブ棟」は、休日の運用やセキュリティ確保のため、敷地内に単独配置するものとし、校舎との行き来が安全な位置に計画します。また、屋外トイレ及び校務員作業室を集約した「管理棟」を計画します。
- 2) **動線計画**：車両が出入りする正門は十分な幅の歩道を整備し、児童の登下校時の安全性を確保します。歩行者専用として、既存の北門、南門に加え、東門を新設し、正門の混雑を緩和する計画とします。
- 3) **駐車場計画**：来校者用 28 台分、教職員及び放課後児童クラブ職員用 66 台分、学校給食共同調理場職員用 19 台分の駐車場を計画します。校舎出入口付近に配置した車いす駐車場には、上部に庇を設け降雨時にも利用しやすい計画とします。スクールバス乗降場から昇降口まで庇を設け、降雨時もスムーズに移動できる計画とします。また、乗降場とは別に 4 台分のスクールバスが一時駐車できるスペースを計画します。



配置計画図

■外観コンセプト

外観は、以下の 3 つのコンセプトに基づいた、外観デザインとします。

1) 町並みに馴染むスケール感のデザイン

校舎正面はボリュームを 3 つに分割し、建物全体の規模感を抑えることで、周囲の町並みや景観に調和するデザインとしています。地域との一体感を醸成し、鞍手町らしい親しみやすい学校の外観を実現します。

2) 水平ラインを強調した温かみのあるデザイン

普通教室の開口部を水平ラインで統一し、全体的に落ち着きと安定感を与えるデザインとしています。庇や袖壁を効果的に配置することで、建物に陰影を生み出し、温かみのある表情を持たせています。

3) 環境に配慮した機能性と耐久性

南面には庇を設け、夏の日射負荷を軽減しつつ、自然光を取り入れる工夫を施しています。耐久性に優れた外装材を採用し、長期的なメンテナンス性や経済性にも配慮した計画としています。



外観イメージ (南側)

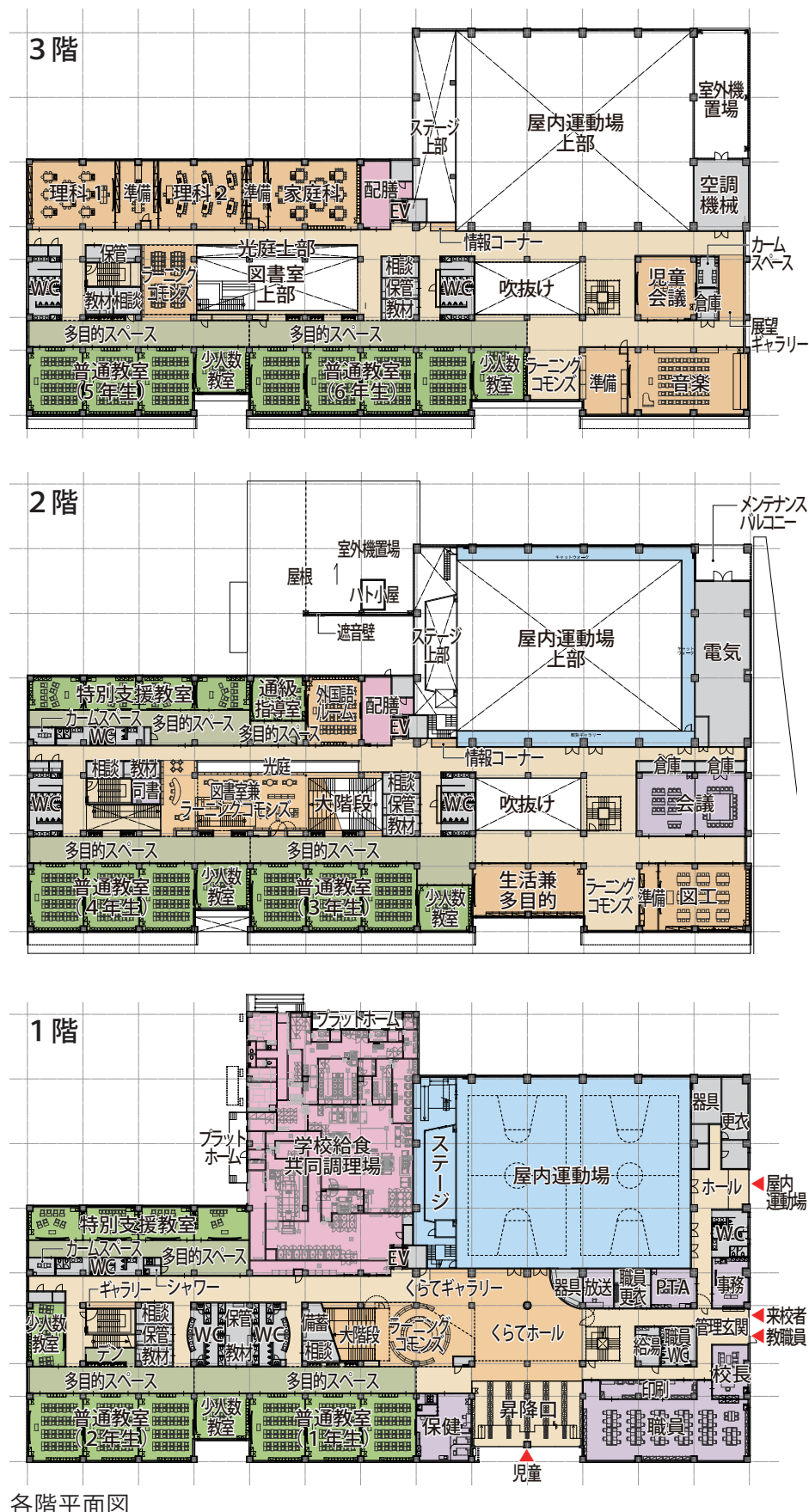


外観イメージ (正門側)

II . 計画概要

■平面計画

【凡例】 管理 教室 多目的 共用廊下 特別教室 屋内運動場 給食 その他



■ 3階

南側を5, 6年生の普通教室とします。音楽室は、グラウンドに面した校舎棟南に配置し、壁や窓は遮音性を高め、近隣への音の影響に配慮します。家庭科室は、調理及び被服の授業に対応可能な計画とします。調理時に配慮し、耐熱性及び防滑性の高い床材を採用します。理科室は、使用頻度を考慮し2室設けます。

■ 2階

南側を3, 4年生の普通教室とし、落ち着いた環境を確保できるように北側に特別支援教室、通級指導室を配置します。全学年が利用する図書室は、2階中央に配置し、誰もが利用しやすい計画とします。会議室や生活兼多目的室は、用途に応じて中央の移動間仕切りで2室に分割できる仕様とします。また、会議室は学年集会時の集まりやランチルームとしても利用できる広さを確保します。

■ 1階

南側に昇降口、その正面を共用部、東側を教室エリア、西側を管理エリアとします。北側には、学校給食共同調理場及び屋内運動場を設け、校舎と一体とします。教室エリアは、南側の昇降口に近接した教室を1年生の普通教室、その隣を2年生の普通教室とし、落ち着いた環境確保のため北側に特別支援教室を配置します。管理エリアの職員室は正門かつグラウンド側とし、管理しやすい配置とします。

■意匠計画

- 1) **空間計画:** 児童一人ひとりが自分の居場所を見つけ、安心して学校生活を送ることができるよう、オープンなラーニングコモンズや大階段、普通教室よりも小さく少人数で学ぶことのできる少人数教室、隠れ家的小空間（デン）など、様々な空間を計画します。
- 2) **内装計画:** 各室の内装は、用途に応じ、快適性や安全性に配慮した計画とします。また、耐久性やメンテナンス性、掃除のしやすさにも配慮した材料を採用します。さらに、天井や壁、床などの内装や家具には、木材や木調の材料をふんだんに使用し、自然の温もりを感じられる居心地の良い空間とします。



ラーニングコモンズのイメージ



隠れ家的小空間（デン）のイメージ



内装木質化事例



内観イメージ（3階から1階を見下ろす）



内観イメージ（1階から2階を見上げる）

■ 2階共用空間

校舎棟の中心となる2階中央は、図書室兼ラーニングコモンズとし、児童が場所や過ごし方を自由に選択できる空間とします。また、光庭やハイサイドライトを計画し、自然光を取り入れます。1階と2階をつなぐ階段は、左右に通路を設け、中央部は座って滞在できる大階段とし、1, 2階の共用部と一体利用可能な、読書や会話を楽しむことのできる空間を計画します。

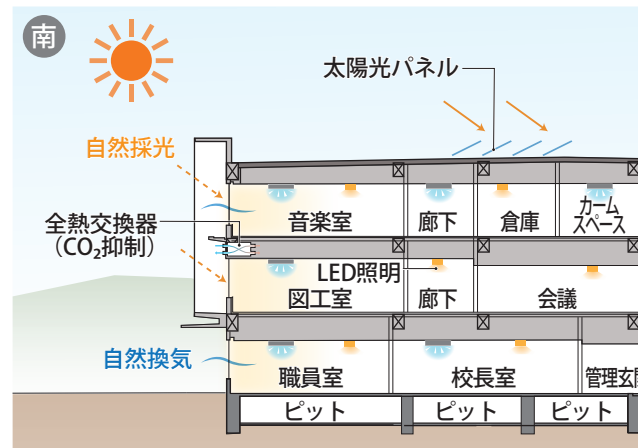
■ 1階共用空間

昇降口正面に、3層吹抜の開放的な広い空間「くらてホール」、統合する6つの小学校の歴史継承や情報発信の場となる「くらてギャラリー」を計画します。登下校時の混雑緩和や、児童同士や児童と教職員の交流促進につながる空間を創出します。隣接するラーニングコモンズには低学年向けの本が収納できる本棚を配置し、読書や会話を楽しむことのできる空間とします。

II. 計画概要

■環境計画

- 1) **カーボンニュートラルへ向けた取組み**：「カーボンニュートラル 2050」「GX」などの政策を踏まえ、日射負荷低減・自然エネルギーの利用・環境配慮技術の採用により、ZEB Ready を実現します。
- 2) **熱負荷低減**：建物周囲は方位に応じた外装デザインにより日射を制御します。また、東西軸の校舎配置することで、西日による熱負荷を軽減します。
- 3) **自然エネルギー利用**：建物南側の庇により、雨など天候に左右されず安定した自然通風を確保できる計画とします。また、太陽光発電パネルの設置による創エネルギーを計画します。
- 4) **エネルギーの利用効率化**：各種センサー技術を活用した最適運転制御などの先進的システムにより、エネルギー消費を削減します。
- 5) **建築の長寿命化**：LCCO2（ライフサイクル CO2）の削減のため、構造体と内装・設備などを明確に分けることで将来の間仕切変更や設備更新などに対応します。
- 6) **エネルギーの見える化**：環境への意識向上のため、消費エネルギーや創エネルギーの見える化を行います。



南北断面（南側）イメージ



太陽光発電パネルとエネルギーの可視化のイメージ

■BCP計画

- 1) **地震対策：耐震安全性の基準Ⅱ類**
耐震安全性の基準をⅡ類することにより、建物の損傷を抑え、避難所として機能を維持できる計画とします。
- 2) **浸水対策：基幹設備の上階設置**
基幹設備となるキュービクルは2階に設置します。
- 3) **台風対策：ガラス強度確保と飛来物・落下物対策**
サッシやガラスは耐風性能に配慮します。
- 4) **火災対策：火災予防の徹底**
最新防災システムを導入し、火災予防を徹底します。
- 5) **非常時の機能維持**
災害時は、自然換気・自然採光により最低限の環境を確保します。また、約3日間の自立運営を想定したインフラ計画とします。
- 6) **避難所としての機能**
一時避難所や避難所、炊き出し対応可能な場所、マンホールトイレなどを計画します。被災時は、教室棟を区画した「セキュリティライン①」で区分し、避難所を継続利用しつつ学校を再開する場合は、屋内運動場を区画した「セキュリティライン②」で区分します。

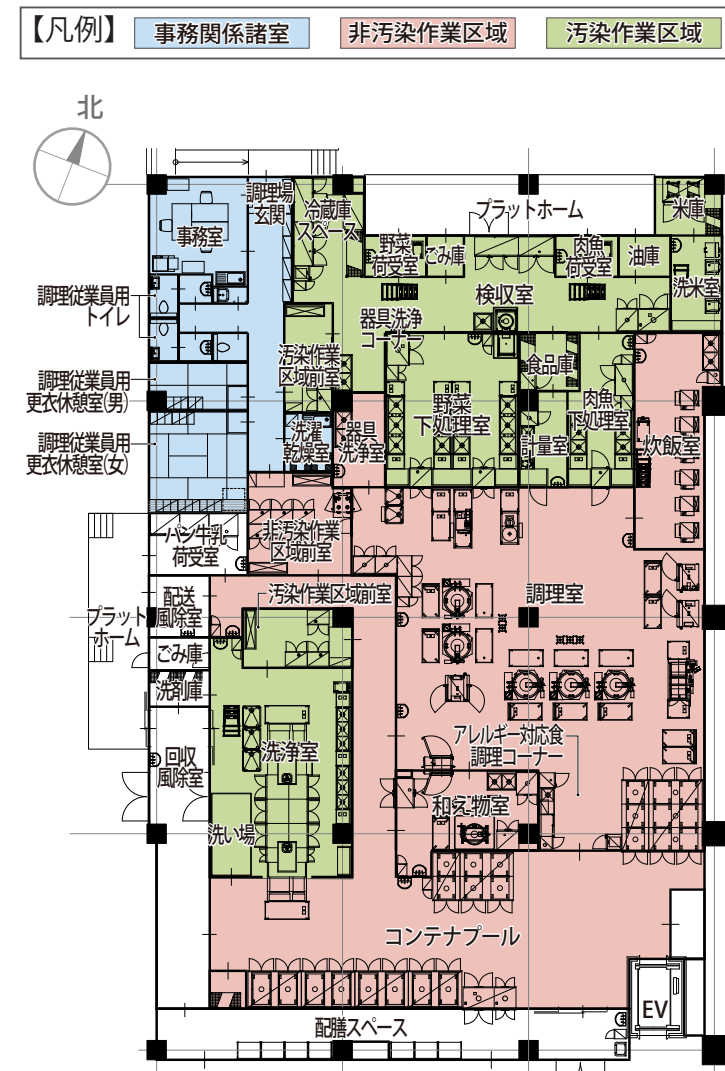
インフラ		計画内容
電力		発電車の接続口を設置
上水道	給水ポンプ	発電車接続により、電源を供給し、稼働
	飲料水	3日分の上水を受水槽で備蓄
	雑用水	ビットの雑用水槽（雨水利用を想定）の給水ポンプを稼働し、トイレ洗浄水として利用
下水道	排水ポンプ	発電車接続により電源を供給し、稼働
	排水槽	緊急排水槽を地下ビットに設置（3日分）

災害時に備えたインフラ計画



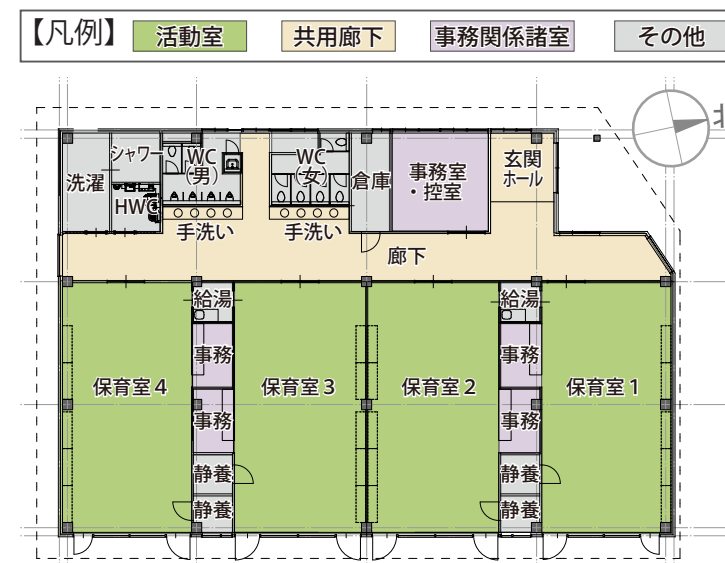
災害時の運用イメージ

■学校給食共同調理場計画



学校給食共同調理場平面図

■放課後児童クラブ



放課後児童クラブ平面図

新たに整備する学校給食共同調理場は、「鞍手町学校給食共同調理場整備指針」に掲げた3つのコンセプトを踏まえ、次のような計画とします。

- 1) **親子方式の共同調理場**：一日の最大調理能力約1,100食規模の共同調理場で、統合小学校から中学校へ安全に給食を提供できるよう、ブラットホームを共同調理場の北側と西側に2か所設けます。食材などの搬入は北側、中学校への配送・回収は西側として、安全かつ効率的な運搬動線を確保します。
- 2) **学校給食衛生管理基準に準拠した共同調理場**：衛生管理の徹底に努めるため、ドライシステムを導入するとともに、作業区域の衛生区画を明確にし各区域への進入口に前室を設けます。また、一方通行で作業動線が交差しないレイアウトとします。
- 3) **食育の推進につながる共同調理場**：「学校給食」を生きた教材として活用するため、調理場内にカメラを設置し、映像配信により調理や配膳等の様子が見学できるよう整備します。また、炊飯室や下処理室の拡充により、自校炊飯や地場産物の使用拡大の他、安全性を確保した範囲でできるアレルギー対応食を含めた献立の多様化に対応できる調理場を計画します。

敷地内に単独棟として整備し、保護者の送迎に配慮したアクセスしやすい配置とします。想定児童数は180名とし、保育室は4室を確保します。保育室内は、壁面ロッカーを設け、柔軟な利用が可能な仕様とします。また、静養室を整備し、感染症対策やカームダウンスペースとして活用します。事務室は玄関近くに配置し、保護者対応や事務作業が効率的に行える環境を整えます。トイレは男女別、バリアフリートイレを含め十分な個数を確保し、手洗い場も多くの児童が同時に利用できるよう配慮します。玄関はバリアフリー設計とし、庇や照明、カメラ付きインターホンを設置して安全性を高めます。